

vol.

Governor's 02

Monthly Communication

2025.08.01

Rotary International District 2690

2025-26

2025-26年度

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

2025-26年度地区ガバナー 坂口 元昭



版画：橋本興家「夏朝岡山城」

会員増強・新クラブ結成推進月間に寄せて	02
地区ガバナーエレクト拜命にあたって	03
地区ラーニングファシリテーターあいさつ	04
地区委員長あいさつ	05-07
ガバナー月信表紙デザインについて	07



表紙版画：橋本興家(はしもと おきえ)

鳥取県八頭町(旧船岡町)出身。東京美術学校(現・東京藝術大学)卒。庭や風景、日本の古城を題材とし、「城の版画家」として有名。国際版画ビエンナーレ展等に出展、日本版画協会理事長も務めた。作品は東京国立近代美術館、東京藝術大学や鳥取県立美術館、米子市美術館・境港市などに所蔵。鳥取県八頭町の橋本興家記念館には多数の作品及び所蔵品がある。「夏景名城」は氏を代表する作品の一つである。

Rotary
District 2690



よいことの
ために
手を取りあおう

会員増強・新クラブ結成推進月間に寄せて

地区ガバナー

坂口 元昭



暑中お見舞い申し上げます。連日続く酷暑のなか、皆さまにおかれましてはご健勝にてご活躍のことと存じます。8月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」として、世界中のロータリアンが組織の未来を考える大切な時期です。

2025-26年度、国際ロータリー会長は、「UNITE FOR GOOD ～よいことのために手を取りあおう～」というメッセージを掲げました。ロータリーの奉仕は、私たちが手を取り合い、地域社会と世界に“よいこと”をもたらすことに他なりません。

RIは3つのキーワードを用い、会員増強について述べています。

1つは「革新」です。「テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。革新こそが、変化する世界に私たちが適応する手段なのです。」新しい人、新たな活動の機会を増やす為に、クラブは exclusive (排他的)なクラブから inclusive (包括的)なクラブへ変わる必要があります。クラブ形態も衛生クラブ、パスポートクラブ、法人クラブ、分野特化クラブ等新しいモデルを創造していく必要があります。

次に「継続性」です。「継続性とは画一性ではなく連携である。年度を超えてロータリーの未来を見据えることで、長期的な成功の基盤が築かれる。」3年間の行動計画を策定し、クラブとして中期的な目標を共有して取り組むことが大切です。

そして「パートナーシップ」です。「分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。良いことのために手を取り合えるロータリーを築き、すべての人にとってより明るい未来を実現させましょう。」他団体や組織と連携することで、多

様性を取り入れ、会員増強とクラブの活性化を実現させましょう。ローターアクトクラブやインターアクトクラブ、青少年交換留学生やROTEX、米山記念奨学生や学友等、ロータリーファミリーの連携も大切です。

本年度、国際ロータリーの最優先課題は「会員増強」です。2025年7月1日現在、2690地区の会員数(RAC除く)は2,855名で、これは地区始まって以来最少の会員数です。平均年齢も60歳台のクラブが多く、徐々に上がりつつあります。昨年、一昨年に続き2025-26年度も、地区目標は「クラブ純増1名以上」を掲げ、3,000名超の会員規模の維持と発展を目指します。それを実現するために、今まで以上に「会員増強」に取り組まなければなりません。因みに、地区内の最多会員推薦者は、出雲南RCの原田明成会員で、これまでに75人の会員を推薦され、うち54人が現在も現役で活躍されています。この記録は、日本国内でも最高レベルの実績であり、その素晴らしい経験については、今後どこかでご披露いただく予定です。そして、メッセージとキーワードを念頭におき、日常の奉仕活動や地域での交流を通じて、ロータリーの魅力やロータリーにしか出来ない価値を発信し続け、共感を得ていくことが大切です。そしてロータリアン一人ひとりが、会員増強は「誰かがやること」ではなく「自分ひとりでもできること」として、行動を始めましょう。その小さな一歩が、クラブの未来を切り拓く大きな力になります。

「UNITE FOR GOOD ～よいことのために手を取りあおう～」私たちの一歩が、よりよい世界への道を拓き、持続可能な良い変化を生むことを信じて――

この推進月間を行動のきっかけといたしましょう。

地区ガバナーエレクト拝命にあたって

地区ガバナーエレクト

金谷 晋爾



国際ロータリー第2690地区の会員の皆様、2025-26年度地区ガバナーエレクトを拝命いたしました、金谷晋爾でございます。

2024年3月2日の諮問委員会にて地区ガバナーノミニー・デジグネートを拝命し、同年7月1日には正式に地区ガバナーノミニーを拝命いたしました。それから早くも17カ月が過ぎようとしています。

この間、行事やセミナー、懇談会に参加し、ロータリーの奥深さに触れ、多くの学びと、生涯の友となる方々との出会いにも恵まれました。

そして2025年7月1日、正式に地区ガバナーエレクトを拝命いたしました。

当初、私の所属する玉島ロータリークラブは会員数28名と少なく、皆様にご心配をおかけしましたが、第6グループ250名の皆様に支えられ、ようやく組織体制も整い、現在は事務所スタッフと協議を重ねながら準備を進めております。ただ、情報量が多く、その整理や精査の過程でやや消化不良を起こしているのも事実です。

こうした中で原点に立ち返ろうと、先日のガバナー懇談会の後、三島市の米山梅吉記念館を訪れました。米山梅吉翁は日本初の東京ロータリークラブを創設し、その理念を全国に広め、日本ロータリーの礎を築かれました。

特に印象深かったのが、翁の著書『新隠居論』でした。要旨は、「隠居後は、職務でできなかったことに取り組み、社会に奉仕しなければ人の義務を果たしたとは言えない。事業に成功したら後進に道を譲り、報恩と奉仕の方法を探るべき。隠居は引退ではなく、新たな役割を果たすことである。西洋の隠居を見習おう」というものです。私に

道を示してくれる言葉でした。

これからの1年間、地区チームの皆さんと協力し、私のガバナー年度の実現に向けて有意義な計画を構築・実践してまいります。

国際ロータリー理事会は継続性を重視し、2024-25年度をトライアルの初年度とし、クラブに3年間の目標・計画の立案を求めています。昨年の榊原ガバナー、今年の坂口ガバナー、そして私の年度が対象となる3-Year Rolling Targetであり、これは私の年度で終わるものでなく、高山年度以降にも継承されるべきと考えております。国際ロータリーも、地区活動において継続性を重視し、より具体的な戦略計画を求めているようです。

各クラブの自治を尊重しつつ、歴代パストガバナーの皆様が育んできた伝統を守り、改革すべきは勇気をもって取り組む。この姿勢を忘れず、地区運営に全力で臨んでまいります。

国際ロータリー第2690地区の会員の皆様、パストガバナーの皆様、地区役員の皆様と連携し、ご理解とご協力をいただける運営に努めてまいります。

今後ともご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



地区ラーニングファシリテーターあいさつ

地区ラーニングファシリテーター

庄司 尚史



「ラーニングファシリテーター」と聞いて、すぐにその意味を理解できる方は多くないかもしれません。以前は「研修リーダー」と呼ばれていました。

国際ロータリー(RI)は、毎年1月(今年は2月)にガバナーエレクトおよびそのパートナーのために「国際協議会」を開催していますが、昨年からの研修を担う役職名が「研修リーダー」から「ラーニングファシリテーター」へと改められました。これに伴い、地区でも名称変更が行われています。その任務はガバナーを支えることが中心ですが、特にガバナーエレクト期に実施される「地区チーム研修」「会長エレクト研修セミナー(PETS)」「地区研修・協議会」「クラブ活性化ワークショップ」などにおいて、的確なアドバイスをすることも重要な役割です。

国際ロータリーは今、「トレーニング(訓練)」から「ラーニング(学び)」へと視点を変えつつあります。上から教えるのではなく、共に学び合う姿勢を基本としています。これまでの「リーダー」から「ファシリテーター」への呼称変更も、多様な意見を引き出し、まとめていく立場であることを明確にするためです。

次年度から「会長エレクト研修セミナー(PETS)」は「会長エレクト・ラーニングセミナー(PELS)」に、「地区研修・協議会」は「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー」に変更される予定です。従来の講義型のプログラムから、参加型・対話型のディスカッションスタイルへと移行していくことになるでしょう。

今年度のスタート直前、RI会長エレクトが交代するという前代未聞の事態が発生しましたが、会長メッセージ「Unite for Good」は変更されていません。臨時理事会により新たに承認されたアレツツオ

氏は、わずか数日でカルガリー国際大会に出席することとなり、その場で行われたスピーチは非常に素晴らしく、多くの感動を呼びました。

皆様もぜひ「My ROTARY」や『ロータリーの友』でご覧いただきたいと思います。そのスピーチで彼は、ロータリーが掲げる最重要目標として「ポリオ根絶、会員増強、平和推進」の三つを挙げ、これこそが我々が力を注ぐべき全てであると力強く語りました。

現在、地区内65クラブそれぞれで新年度がスタートし、活発な活動が進んでいる時期かと思います。クラブや委員会活動の一助として、何か参考になるヒントをお探しであれば、ぜひ「JAPAN Portal Site」[<https://www.japanrotary.club>]を訪れてみてください。アレツツオRI会長、そして坂口ガバナーが目指している方向性が明確に理解できるはずです。

ポリオ根絶に関しては、同サイト内のリンクから詳細情報にアクセス可能です。10月24日の「世界ポリオデー」にちなんだイベントを計画しているクラブやグループもあることでしょう。ぜひスマートフォンなどで写真を撮影し、フォトコンテストに応募してください。このフォトコンテストは、11月19日・20日に開催される「ロータリー研究会」で表彰される予定です。

また、今年で4年目となる活動として、毎年10月24日前後、日本のロータリー34地区が合同で、日本経済新聞にポリオ根絶をテーマとした全面広告を掲載しています。いくつかの地区では、この広告をポスターとして作成し、ロータリー会員に配布して各事業所などに掲示して活用しています。

ぜひこの機会に掲示を行い、ロータリーの認知度を一層高めていきましょう。ポリオ根絶の願いとともに、我々の存在と活動の意義を社会に強くアピールしていくことが今こそ必要です。

地区委員長あいさつ



地区会計長
地区財務委員会委員長

鶴田 和彦

2025-26年度、坂口元昭ガバナーのもと、地区会計長を拝命いたしました鶴田和彦です。

地区資金は、会員皆様からお預かりする大切な財源であり、その適正な管理と透明性の確保は、私の最重要責務と認識しております。

昨今の経済情勢や会員数の動向を踏まえ、効率的かつ効果的な資金活用を推進してまいります。

また、地区運営の健全性を保つためにも、丁寧で的確な会計処理に努め、信頼される会計体制の構築を目指してまいります。

どうか本年度も、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



地区広報委員会委員長

土岐 哲己

2025-26年度地区広報委員会委員長を拝命いたしました、米子南ロータリークラブの土岐哲己(ときてつみ)です。

当委員会は、地区坂口元昭ガバナーの方針を広くお伝えするとともに、地区内の活動を情報収集し、ガバナー月信として発信することを目的としています。

今年度は新たな試みとして紙面の発行を行わず、第2690地区ホームページに掲載し、ダウンロードや印刷でご覧いただける形式を採用させていただきました。

画面閲覧が主となるため、読みやすさに配慮した構成を心がけます。今後の寄稿や情報提供にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



地区奉仕活動委員会委員長

前田 壽美

地区奉仕活動委員会委員長を務めます、米子南ロータリークラブの前田壽美と申します。

社会奉仕活動には、長年継続している事業もあれば、地域の変化するニーズに応じて実施するものもあります。

みんなの為になるか、知恵を出し合い、全員で取り組む奉仕活動は大きな意義を持ちます。

社会奉仕は、地域におけるロータリークラブの認知やイメージ向上の好機でもあります。各クラブで有意義な活動が行われることを期待しています。

地区奉仕活動委員会は微力ながら地区65クラブの奉仕活動の実施を支援してまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



会員増強委員会委員長

吹野 正和

2025-26年度地区会員増強委員会の委員長を拝命いたしました、吹野正和です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、国際ロータリー2690地区・坂口元昭ガバナーの重点目標の一つが「各クラブ純増1名以上」の会員増強です。8月は会員増強・新クラブ結成推進月間ですが、私は毎月が増強月間との認識でおります。

会員増強は特定の委員に任せるのではなく、全会員の協力が不可欠です。特に若い経営者や女性会員の増加が重要だと感じております。

「会員増強なくしてロータリーの未来は無し」とという言葉に胸に、全力で取り組んでまいりますので、ご指導ご支援のほどお願い申し上げます。



公共イメージIT委員会委員長

小川 敦弘

公共イメージIT委員会では、ロータリーの理念と活動をより多くの方々に届け、共感と参加の輪を広げることを目的に、情報発信の強化に取り組んでまいります。

ウェブサイトや動画などデジタルツールを活用し、親しみやすく、分かりやすい表現で地域社会にロータリーの姿を伝えていきます。

また、クラブの皆様による日々の活動の積極的な発信が、公共イメージ向上の鍵となります。

各クラブの広報ご担当者や連携しながら、効果的な発信のあり方を共に考え、行動していく一年としたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



米山記念奨学会委員長

波多野 和雄

2025-26年度、RI2690地区米山記念奨学会委員長を拝命いたしました米子南RCの波多野和雄です。

平素より米山記念奨学事業への深いご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

本年度は新規奨学生19名、継続9名の計28名を支援しており、受け入れのRC及びカウンセラーの皆様にも多大なご尽力をいただいております。感謝申し上げます。

本奨学会は日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、日本と世界の懸け橋となる人材を育成する事を目的にしています。この奨学金は、皆様方のご寄付から成り立つ事業です、米山記念奨学事業へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

地区委員長あいさつ



青少年交換委員会委員長

奥田 義人

2025-26年度 第2690地区青少年交換委員会委員長を拝命いたしました米子南ロータリークラブの奥田義人です。

青少年交換のプロジェクトはロータリー活動の中でも、最も価値ある活動と信じています。若い青少年の方々がお互いに海外にて生活し、異文化を体験し、素晴らしい友人を作り、いろいろな体験を通して、人間力を高めてくれると思います。この素晴らしいプログラムに携わることで、私たちロータリアンも共に成長するものと信じます。

未熟ながら精一杯頑張ります。どうぞ皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



青少年奉仕・RYLA委員長

小林 一人

青少年奉仕RYLA委員会は、インターアクトクラブ、RCC、米山奨学生、RAC、青少年交換派遣学生、青少年交換学生、RCと関わりを持ち社会人となられた方々に向けて、ロータリー青少年指導者育成(RYLA)プログラムセミナーなどを開催し、「リーダーシップを発揮したい」「将来の可能性を広げたい」「世界に挑戦したい」といった熱い思いを支援することを目的としています。参加者にとって何かしらのヒントやアイデアに繋がる機会を提供できるよう努めてまいります。

セミナーに参加される方々やロータリークラブに関わる皆さまが、より一層で活躍いただけることを願い、ロータリアンとして少しでもお力添えできればと考えております。



インターアクト委員会委員長

永島 正道

今年度、インターアクト委員会委員長を拝命いたしました永島正道です。

インターアクトへの理解も浅く力不足ではありますが、皆様のご指導とご助言をいただき、1年間努めてまいります。7月6日に「第1回地区委員会」と「クラブ委員長会議」を開催しました。

今後は、7月末の益田市での地区大会(ホスト:明誠高等学校IAC、益田RC)を皮切りに、8月後半の岡山県、9月後半の島根・鳥取両県のBK協議会、さらに年末にかけて各県の指導者講習会が予定され、事業が続きます。

「教員の働き方改革」や「未成年者対象の危機管理」への配慮を、今後の事業にどう織り込むかが課題です。

ご協力をよろしくお願いいたします。



ローターアクト・ロータリー学友委員会委員長

渡辺 一徳

最初にローターアクトクラブに関する〇×クイズです。

1) 18歳から30歳の会員で構成されている 2) 地区内の会員数は25年前より減少 3) 会員が5名未満なら人頭分担金は不要 4) 設立にはロータリークラブのスポンサーが必要 5) グローバル補助金には参加できない。

地区内には10クラブあり、大学生を基盤としたクラブも昨年度から増加しています。しかし、ローターアクトクラブについて十分に理解しているロータリアンはまだ少ないと感じます。この一年、クラブの理解と協力促進に向けて行動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(クイズの答え: 全てバツ)



補助金小委員会委員長

大屋 明宏

2025-26年度補助金小委員会委員長を務めます、米子南ロータリークラブの大屋明宏です。

ロータリー財団の地区補助金は「地区でよいことをしよう」という理念のもと、地域奉仕を支援するものです。

小委員会はその申請・報告の確認と支援を行います。地区補助金は短期・小規模ながら、すべてのクラブが比較的容易に実施計画の立案が可能なプログラムに対する補助金です。

今年度の実施プロジェクトが成功することを願うとともに、来年度実施に向けた申請についても、各クラブの計画が可能な限り実現できるよう、丁寧にサポートしてまいります。多くの申請をお待ちしています。



寄付推進小委員会委員長

片山 良孝

本年度、地区寄付推進小委員会委員長を務めさせていただきます、米子南RCの片山良孝と申します。

当委員会は、ロータリー財団委員会の元に、財団活動の啓蒙、卓話者の派遣、資金推進に関する全般を統括、クラブや会員の表彰や認証を推進、財団特別功労賞・財団功労賞・財団奉仕賞などの規定作成と候補者の選出、ロータリー賞の推進などを担います。

本年度の坂口ガバナー地区目標は、財団への年次基金支援(150米ドル/人)、ポリオプラスへの寄付(30米ドル/人)となっています。ロータリークラブ活動は皆様の寄付によって成り立ち、地域社会および国際社会に貢献することが可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。



ポリオプラス小委員会委員長

松本 正

地区ポリオプラス小委員会委員長を務めさせていただきます、境港RCの松本正です。

ロータリーは半世紀以上、ポリオ撲滅という歴史的目標に挑み、根絶の目標達成まであと少しのところですよ。

坂口ガバナーは公共イメージ向上につながるこの活動に注力され、地区大会でも関連プログラムが予定されています。また、地区目標として、1人30米ドルの寄付、各グループから20名以上のポリオプラス・ソサエティー新規加入促進を掲げられています。

ポリオは治療法がなく、予防が唯一の手段です。有効なワクチンで得た免疫は一生持続し、接種が子どもたちを守り続けます。皆様のご支援・ご協力をお願いします。



資金管理小委員会委員長

清水 幸憲

2025-26年度国際ロータリー第2690地区資金管理小委員会委員長を拝命致しました米子南ロータリークラブの

清水幸憲です。

委員会は、地区とクラブとの間で締結した非常に重要な覚書(MOU=Memorandum of Understanding)の実施の支援・補助金管理セミナー等、クラブが地区補助金を使用するプロジェクトの計画・実行・報告書のチェック、資格認定を監督するなどを任務としています。

透明性が絶対不可欠の為、参加資格要件・履行義務が遵守出来る様取り組んでまいりたいと思います。一年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。



ロータリー平和フェローシップ小委員会委員長

福井 龍介

ロータリー平和フェローシップ小委員会委員長を拝命しました、米子南ロータリークラブの福井龍介と申します。

昨年は副委員長として初めてロータリー財団グローバル補助金奨学生、地区補助金奨学生の選考過程に参加させて頂きました。その際、応募書類に書かれた文章に触れ、皆様の志の高さと熱意、具体的な目標とそれを実現する為の、明確なロードマップに深い感銘を受けました。

世界は理不尽で不条理な国際紛争が次々と連鎖しています。そうした時代にあって、世界平和に向けて学び、それを生かしていく人財を支え育てる機会を、地区役員の一人として関われる事に、誇りを感じています。そして私自身も彼らから多くを学ぶ一年と致します。

ガバナー月信表紙デザインについて

ガバナー月信出版担当
小川 敦弘

2025-26年度の「ガバナー月信」では、各号の表紙に鳥取県八頭町出身の版画家・橋本興家(はしもと おきいえ)氏の作品を掲載しています。橋本氏が手がけた数多くの作品の中から、鳥取県・島根県・岡山県にゆかりのある風景や文化財を題材とした版画を中心に選定し、年間を通して地域の魅力を発信する構成としています。

橋本興家氏は1899年(明治32年)に旧船岡町(現・八頭町)で生まれ、東京美術学校(現・東京藝術大学)を卒業。日本各地の庭園や風景、古城を主なモチーフに据えた作品で知られ、「城の版画家」と称されました。構図の美しさや陰影の表現、そして版木への深い愛情が感じられる作品群は、見る者に静謐な感動を与えます。

氏は国際版画ビエンナーレ展などに出席し、国内外で高い評価を受けるとともに、日本版画協会の理事長も務めるなど、日本の版

画界に多大な貢献を果たしました。代表作「夏景名城」をはじめとする作品は、東京国立近代美術館、東京藝術大学、鳥取県立美術館、米子市美術館、境港市など、各地の美術館に収蔵されています。郷里の八頭町には「橋本興家記念館」が設立され、数多くの作品と資料が展示されています。

本年度のガバナー月信では、こうした郷土の誇る芸術家の作品を通じて、地域文化の奥深さや美しさにふれていただくとともに、私たちロータリアンの奉仕の理念とも重なる「継承と創造」の精神を、あらためて感じていただければと願っております。

毎号の表紙に込められた想いが、皆さまの心に静かに響き、日々の活動への小さな励ましとなれば幸いです。

どうぞ一枚一枚の作品と向き合いながら、お楽しみください。

異文化交流を通じて、
未知の自分の可能性を
発見してみませんか

ロータリー青少年交換プログラム

長期青少年交換 派遣学生募集

海外での
生活費 + 授業料
サポートします！

派遣先のロータリークラブが負担します

渡航に
際しての費用は
派遣学生側の
負担となります

実施要項

交換地域	交換期間	募集人数
アメリカ・カナダ	2026年8月～2027年7月	合わせて 3名程度
オーストラリア	2027年1月～2027年12月	

応募資格

1. 2026年8月末現在で、15歳から18歳未満の中学生・高校生
2. 鳥取・島根・岡山の学校に在学中、または在住であること
3. 異なる文化を受け入れることができ、新しいことに挑戦する意欲を備えていること
4. 学校長の推薦があること
5. 保護者の同意があること
6. 地元ロータリークラブの推薦があること

選考方法

書類選考・作文・英語の筆記試験及び面接試験(英会話を含む)
試験日 / 2025年11月8日(土) 13:00～16:00(予定)
会 場 / ANAクラウンプラザホテル米子

応募方法

応募ご希望の方は、お近くのロータリークラブまたはロータリークラブ会員にご相談ください。

応募期限

2025年8月29日(金)

ロータリークラブ必着

お問合せ / 国際ロータリー第2690地区青少年交換委員会

〒683-0064 鳥取県米子市道笑町2-227-4 TEL(0859)21-2690 E-mail : sakaguchi2690@alto.ocn.ne.jp



国際ロータリー第2690地区
地区世界社会奉仕(DWCS)プロジェクト

助成金申請ご案内

申請期間:2025年7月1日～8月31日

- 1 プロジェクトは、人道的奉仕活動であること。
- 2 自国と援助国および地域のロータリアンもしくはロータリー学友メンバーが関与すること。
- 3 プロジェクトは、援助国の1カ国で実施すること。
- 4 助成金の申請は、該当年度において、1クラブ1プロジェクトとすること。
- 5 助成金の上限は、1プロジェクトにつき100万円とする。
- 6 クラブの自己資金は、助成金の50%とすること。
2011年度以降初めて申請するクラブの自己資金は、助成金の30%とし、2回目以降、申請するクラブは助成金の50%とすること。
- 7 同一の受益者に対する継続的支援とならないことが望ましい。
ただし、同一の受益者へ支援の場合は、DWCS委員会にて審議し決定すること。
- 8 助成金の金額については、DWCS委員会にて決定するものとする。
- 9 ロータリー財団の補助金(国際財団活動資金あるいは地区補助金)を利用しないこと。
- 10 プロジェクト完了後にDWCS委員会へ報告を行うこと。

申請方法
問合せ先

国際ロータリー第2690地区世界社会奉仕委員会
E-mail : sakaguchi2690@alto.ocn.ne.jp